

平成28年度

第2回 指定管理者選定評価委員会

平成28年10月12日

千葉市教育委員会

日時：

平成28年10月12日（水） 18時00分～20時13分

1 場所：

千葉市教育委員会事務局 教育委員会室

（千葉市中央区問屋町1-35 千葉ポートサイドタワー12階）

2 出席者：

（1）委員

近藤葉子委員（会長）、中原秀登委員（副会長）、尾形雅之委員、岡村健司委員、
宮野モモ子委員

（2）事務局

ア 教育総務部

矢澤部長

イ 生涯学習部

大崎部長

ウ 総務課

國方課長、三田課長補佐、大須賀主査、坪山主事

エ 生涯学習振興課

増岡課長、西村担当課長、大塚課長補佐、木村主査補、渡辺主事

3 議題：

（1）千葉市科学館の指定管理予定候補者の選定について

4 議事の概要：

（1）千葉市科学館の指定管理予定候補者の選定について

千葉市科学館の指定管理の指定管理予定候補者選定に係る形式的要件審査の結果等について事務局から説明後、応募者の提案内容の形式的要件審査において失格とする事由はない事、客観的評価が可能な5項目について、事務局案のとおりとする事を確認した。その

後、各応募者のヒアリングを実施し、各委員が必要に応じて事前審査の評価を修正し、事務局において集計。コングレ・東急コミュニティー共同事業体を第1順位、トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体を第2順位として選定することを決定した。

また、答申について、審議の内容を基に事務局が答申案をまとめ、各委員の意見を聴取した上で、会長の承認を経て本委員会の答申とすることとした。

5 その他

今回の選定結果の反映に関するスケジュールについて事務局から説明があった。

6 会議経過：

○三田総務課長補佐 ただいまより、平成28年度第2回千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会を開会いたします。

申し遅れましたが、私は本日の司会を務めさせていただきます教育委員会総務課の課長補佐の三田と申します。よろしくお願いいたします。

本日の会議でございますが、5人の委員全ての方にご出席いただいておりますので、会議は成立しております。

それでは、議事に入ります前に、お手元の次第に記載しております一覧により、資料の確認をお願いいたします。資料の1から7まで、机の上に載っていると思います。また、委員の皆様には事前審査をいただきました採点表もあわせてございます。不足などがもしございましたら、お気づきになったときで構いませんので、事務局のほうにお知らせいただければと思います。

それでは、早速でございますが、会議を開催させていただきます。

議事進行につきましては、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第9条第3項の規定により、会長が会務を総理することとなっておりますので、近藤会長、よろしくお願いいたします。

○近藤会長 それでは、次第に従いまして議事を進行してまいります。

まず、議題（1）千葉市科学館指定管理予定候補の選定についてですが、事務局から説明をお願いします。

○國方総務課長 総務課の國方でございます。よろしくお願いいたします。

本日の選定に係る審議の流れについてご説明させていただきます。

委員の皆様には、事前に提出いただきました審査結果を集計した資料をお配りしておりますので、当該資料をもとに、「保留」のある項目を中心にご審議いただき、審議の結果を踏まえて事前審査の結果を適宜修正していただきたいと存じます。

各応募者のヒアリングについてですが、まず、ヒアリングの前に、所管部長より申請資格要件の審査である形式的要件審査の結果などの事項について説明いたします。

それに続きまして、団体の経営及び財務状況について、岡村委員より計算書類等に基づきご説明をお願いしたいと存じます。財務状況をご説明いただいた後、質疑応答の時間を設け、その後、各応募者へのヒアリングを行います。

ヒアリングは入替制で行い、応募順にコングレ・東急コミュニティー共同事業体、トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体の順に行います。最初に応募者より出席者の紹介を含め、提案書について10分以内で説明をしていただきます。その後、20分間の質疑応答を行っていただきまして、応募者への質問がある場合は、この時間にご発言をお願いいたします。質問が終了いたしましたら、応募者には退室をしていただきます。応募者間の公平性の観点から、ヒアリング時間は1者につき30分を超えないことといたします。時間になりましたら、事務局からお知らせいたしますので、質問を終了していただければと思います。

応募者の退出後、委員の皆様には、意見交換等をしていただいた上で、事前審査の評価を確認、修正していただきます。記入が終わりましたら、一度事務局にて採点表を回収させていただきます。集計した後、集計表をお配りしまして、結果を発表させていただきます。この集計結果をもって、委員会として応募者の順位を決定させていただきます。

なお、採点の結果で過半数の委員がDの評価をした項目がある場合、あるいは1人以上の委員がEの評価をした項目がある場合につきましては、その応募者を失格とするかどうかについても協議していただくこととなります。

説明は以上でございます。

○近藤会長 それでは、生涯学習部長、報告をお願いいたします。

○大崎生涯学習部長 生涯学習部長、大崎でございます。形式的要件審査につきまして、そして、客観的な評価が可能な項目の採点につきまして、私のほうからご説明させていただきます。座らせていただきます。

初めに、形式的要件審査についてですが、募集要項に定める応募資格の各要件を満たしているか、応募者から提出された書類より審査するものでございます。表の1から10の項目につ

きまして、形式的要件審査を行ったところ、いずれの団体も要件を満たしておりまして、失格事由に該当しないことを確認をいたしました。なお、項目の10の「当該団体又はその役員が、千葉県暴力団排除条例第2条第1号に規定する暴力団、同条第3号に規定する暴力団員等又は第9条第1項に規定する暴力団密接関係者でないこと。」につきましては、形式的要件審査の後、警察への照会を行いまして、いずれの団体も該当していないことを確認してございます。

次に、客観的な評価が可能な項目の採点についてでございます。まず、2の(1)同種の施設の管理実績につきましては、提案書に記載された公の施設、科学館、プラネタリウムを有する施設、それ以外の博物館の5年以上の実績につきましては、共同事業体の責任割合を乗じて計算し、点数をつけております。

続きまして、5の(2)管理経費、いわゆる指定管理料につきましては、提案書に記載された5年間の指定管理委託料の金額を、千葉県科学館指定管理予定候補者選定基準の計算式により計算をし、点数をつけてございます。

続きまして、6の(1)市内産業の振興につきましては、応募者が市内業者、準市内業者、市外業者であるかにつきましては、千葉県入札参加資格者名簿で確認を行い、共同事業体の責任割合を乗じて計算し、点数をつけております。

続きまして、6の(3)市内雇用への配慮につきましては、提案書に記載されました、施設従事者に占める市内に住所を有する者の割合により、点数をつけております。

続きまして、6の(4)障害者雇用の確保につきましては、法定雇用率の達成状況及び本施設において新たな障害者を雇用するかどうかの2点について、点数をつけてございます。なお、法定雇用率の達成状況につきましては、共同事業体の雇用者数の比で案分して計算をしております。

私からの説明、以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○近藤会長 それでは、まず、選定基準における形式的要件審査についてですが、事務局で確認したところ、失格とする事由はない旨説明がありましたが、この点について何かご質問、ご意見などはございますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○近藤会長 客観的な評価が可能な5項目の採点根拠に関する事務局からの説明について、何かご質問、ご意見はございますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○近藤会長 それでは、本委員会としては、これらの項目について、事務局案のとおりで問題はないことといたしますが、いかがでしょうか。

それでは、本委員会としては、2（1）同種の施設の管理実績、5（2）管理経費（指定管理料）、6（1）市内産業の振興、（3）市内雇用への配慮、（4）障害者雇用の確保の5項目について、事務局の案のとおりで問題はないこととして決定いたします。

続きまして、評価について審議に入る前に、先ほどの事務局からの説明について、何かご質問、ご意見はございますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○近藤会長 続きまして、団体の経営及び財務状況について、ご意見をお聞きしたいと思いますので、岡村委員、ご説明をお願いいたします。

○岡村委員 承知しました。

〔※団体の経営及び財務状況に関する説明の経過については、千葉市情報公開条例第7条第3号に該当する情報（法人等情報）が含まれているため表示しておりません。〕

したがって、両グループとも大丈夫ではないかというふうに思っております。

以上です。

○近藤会長 ただいまの岡村委員のお話について、ほかの委員の皆様から、何かご質問などはございますか。いかがでしょうか。

○岡村委員 付け加えですけれども、コングレ社については、資料が少なかったもので、私から質問をさせていただいて、それに対して回答いただきました。会計士さんに見てもらっているという事で、大丈夫かなと思います。

○近藤会長 それでは、特に問題等、質問等ございませんので、このまま。

それでは、コングレ・東急コミュニティー共同事業体からヒアリングを行いますので、入室をお願いしたいと思います。

〔コングレ・東急コミュニティー共同事業体 入室〕

○近藤会長 それでは、これからヒアリングを行います。10分間で本日の出席者のご紹介と、案内、提案内容を簡潔にご説明をお願いいたします。説明が終わりましたら、私どものほうから質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 よろしく申し上げます。本日はこのような機会をいただきまして、ありがとうございます。

〔出席者紹介〕

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 本日は、このような機会をいただきましてありがとうございます。プレゼンテーションをさせていただきたいと思います。

千葉市科学館は、千葉市科学都市戦略の基本理念である「こどもから大人まで、すべての市民が、日常生活の中で科学・技術を身近に感じることができる、科学都市を創造する。」に基づき、市民が科学技術に触れ合い、ライフスタイルに科学が浸透する機会を提供する生涯学習施設です。私どもは、この基本理念をもとに運営を行ってまいります。

「事業の充実や市民サービスの向上につながる」を基本方針に、安心・安全、平等・公平、地域の活性化など、公の施設の管理運営を行い、市民サービスを実現いたします。私どもは、千葉市科学館のポテンシャルに注目し、もっと多くの事業が実現できるのではないかと活用できるスペースがあるのではないかと。もっと幅広い年齢層に来てもらえるのではないかと仮説を立てました。特に事業に着目し、質、量ともに充実させていきたいと考えております。

まず、それを達成するための体制を考えました。組織体制をご覧ください。実施体制としては、館長、副館長、教育アドバイザー5名、事業課25名、運営課19名、総務課2名、計53名。平成30年度には3名を増員し、56名とします。

次に、連携体制をご覧ください。●●●●●●●●●●●●氏をアドバイザーに迎え、JAXAなどの関連機関とのリレーションをより強固にし、プログラムの充実を図ります。●●●●●をアドバイザーに加えることで事業の幅を広げ、より質の高い事業を展開できると考えております。

それでは、次にどのように事業を展開していくのか、ご説明いたします。私どもは事業を展開するに当たり、冒頭述べました基本理念に基づき、「人がみつける」、「人をつなぐ」、「人があつまる科学館」を旗印に、科学都市にふさわしい施設をめざし、業務に取り組んでまいります。

展示の更新は、科学の原理・原則が活用された機能を持つことを前提に、陳腐化しない展示物とします。例えば「フーコーの振り子」、「2項分布実験器」、「サイクロイド滑り台」のほか、「マクデブルクの真空」、「スターリングエンジン」などを導入する予定にしております。また、教室開催数、プラネタリウム上映回数の増加を提案の柱とし、にぎわいの創出、入館者数、入館料の増加を目指しております。ただし、前提としまして、初年度である平成29年度は現指定管理者様が平成28年9月に策定した事業計画をもとに引き継ぎ、利用者のアン

ケート、職員、ボランティアなどからの要望を取り入れ、次の年度に向けての事業計画を策定いたします。

平成30年度以降は土日講座を600回、参加者を1万2,000名。サマースクールは200回、参加者は3,000名。小学校対象の出前教室60回を必ず達成いたします。

それでは、プラネタリウムについてご説明申し上げます。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 プラネタリウム事業につきましては、ポイントを3つに絞りまして、提案の内容をご説明いたします。

1つ目でございますが、プラネタリウム投影回数の増でございます。土日祝日、それから夏休み、平日などの利用が増える期間、この期間に投影回数を現行の、大体6回ぐらいなんですけれども、こちらから9回ということで約150%増やしたいと考えております。平日につきましては、利用状況を鑑みつつ、投影回数増を検討いたします。もちろんこれを増やす方向で考えております。多様化する千葉市民の方の生活スタイルに合わせて投影を実施することで、利用者を大幅に増やしたいというふうに考えております。

2つ目は、天文普及事業の充実でございます。星空観望会、こちらを現行の年3回を年24回という形で8倍に増やしたいと考えております。新規事業になりますが、千葉市内の高校生がプラネタリウムの番組制作にチャレンジするという、高校生共同番組制作プログラムを新規に行います。地元の高中生が、当グループのプラネタリウム解説員のサポートを受けながら、科学館の事業に直接参加するという地域に密着した事業を行います。

3つ目でございます。リモート天文台の積極的な活用でございます。天体や流星観測のみならず、人工衛星などの撮影に成功した場合には、もちろんプラネタリウムの投影でその画像などを活用するだけでなく、ホームページ等でも公表し、またメディアでも取り上げていただけるよう働きかけを行います。外部から操作が可能な、というところがリモート天文台の大きな特徴でございますので、まずはこの利用規則を整備しまして、公開をしたいと考えております。学校や研究機関様がこのリモート天文台を利用できる、まずは周知を極めていくという考えでございます。

以上の提案のポイントを中心とし、各年度にテーマを設定し、計画的にプラネタリウム事業を実施いたします。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 最後に、収支について申し上げます。本格稼働します平成30年度の収入は、常設展入館者数24万2,000人、収入3,540万。プラ

プラネタリウム入場者数15万5000人、収入2,615万3,000円。企画展入場者数6万3,000人、収入945万です。

支出につきましては、主なものとしまして人件費、各年2%アップ。平成30年度は56名体制、3名増で考えております。その他については記載どおりですが、一般管理費は総事業費の5%で大幅に削減をしております。収入を上げ、支出を削減することにより、指定管理料を先期の5年間と比べ、税抜きで次期5年間で約1億4,000万の削減となります。

以上で、プレゼンテーションを終わりにいたしますが、私どもは千葉市科学館の発展のために、熱意をもって運営に取り組んでまいります。ぜひ、本業務を担当させていただきたく、よろしく願いいたします。

ご清聴、ありがとうございました。

○近藤会長 それでは、質疑応答に入りますが、ご質問のある方。

○中原委員 よろしいですか。理念は端的にお示しいただき、わかりやすいです。ただ、年齢層につきて、科学館というのは基本的に低学年の子どもさんが中心になるかと思いますが、より幅広い年齢、高齢者に対する具体案はあるのでしょうか。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 正直申し上げまして、高齢者の方の企画、どちらを重点的にやっていくかという、私どもの考え方としては、科学とか宇宙とかに興味のある子どもたちとか、大人は、来ていただくのは、まあこれは言葉は悪いんですが当たり前で、科学とか宇宙に興味のない人たちにいかに来てもらうのかというのを中心に考えております。

ですから、今、現指定管理者さんはなかなかレベルの高いことをやっていますので、その事業はまず継続ということで考えております。それ以外に私どもは、まず、科学に興味のない人たちということで、ファミリー層、お父さん、お母さん、子どもたちを対象に、家族で土日に科学館に来てもらえる企画をたくさんすると。そのためには教室の開催数を増やす。いろんな事業をやっていこうということを考えております。

○中原委員 興味のない方を引きつけるというのは、例えば、具体的にどのようなものですか。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 プラネタリウムの番組とかをある程度、どう言ったらいいのでしょうか、キャラクターものとかそういうようなものの投影回数を増やすということによって、そういうきっかけづくりですね、アニメーション番組とか。そういうようなことをやることによって、それは単なる導入編なんですけれども、それを見ていただくことによって、星空に興味を持っていただく。家族で行って今日はよかったな、プラネタリウムが。

じゃ、次は観望会に行ってみようかとか、そこで科学館来ていただいて、いろんなそういう工作教室とか、いろんなことをやって、物づくりの体験ができるとか、そういうようなことをやっていきたい。

○中原委員 ありがとうございます。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 すみません、補足しますと、「大人が楽しむ科学教室」ということで書かせていただいておりますけれども、1つはファミリー、ご両親とお子さんが楽しむようなこういった教室。あとはここに書いてある、シニア向けの工作教室もやっておりますので、そういったことで幅広い年齢層の集客を進めてまいりたいというふうに思っております。

○中原委員 どうもありがとうございます。

○宮野委員 常設展示収入というところの考え方について、もう一度お聞きしたいのです。例えば「②考え方」、「大人の利用率比率を4%上昇させることにより、利用者単価を現状の283円から300円に17円上げます」ということで、次のところの、②についても、「単価を現状の297円から317円に20円上げます」というようなことがありますけれども、たくさん入っていただきたいということ、それから単価を上げていくということ、この考え方についてもう一度お聞きしたいと思います。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 現状、これ、常設展とあとプラネタリウムに分けて考えておりますけれども、今現在の大人、子どもの比率というのが、大人が54%。これは、あくまで有料入館者で考えております。大人が54%で、子どもが43%です。それを大人が58%、子ども39%、大人の割合を上げようと。それで単価を17円上げていこうという考え方が一方でございます。

この方策としましては、先ほどもちょっと触れましたけれども、大人向けのそういった教室だとか講座をやるということが1つと、あとはプラネタリウムですね。プラネタリウムにつきましても、大人が楽しめるような、そういったイベントをやって、大人の集客を増やしていきたいと。先ほど、プラネタリウムについては申し上げませんでした、現状大人が、比率は61%、子どもが32%で、新しく66%と30%にしたいというのがございます。

今、プラネタリウムが、結構ブームになっておりまして、例えばカップルが多くいらっしやるとか、ご夫婦でいらっしやるとかという傾向が結構ございますので、常設展示に加えてプラネタリウムのほうも、まあ大人の比率を上げていきたいというふうに考えております。

○宮野委員 大人の方がたくさん来ていただくのはいいと思うんですけども、費用は上げないとやはりやっていけない。単価を。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 基本的には、入館者数を見ていただければと思いますけれども、底上げを、もちろん子どもの数が減るということではなくて、両方底上げをするというのを前提に考えております。

○宮野委員 ありがとうございます。説明はわかりました。

○近藤会長 岡村先生は何かありますか。

○岡村委員 いいですか。私からちょっと質問させてください。

今のところなんですけれども、1つは常設展示収入ということで、33年度約40%増えますというお話なんです。プラネタリウムも38%、増えますとありまして、ぜひやっていただきたいと思うんですけども、人を3人増やしますとかという話がさっきございましたけれども、目標にいかない場合にはどうするんですかね。適宜、経費を削減していくという、そういう方針ですかね。要は目標にいくかというところが。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 まず、その場合は、一般管理費を削減ということになるかと思います。いかない場合は。

○岡村委員 具体的には、人件費減らせないでしょうから。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 いや、人件費はもう絶対に手をつけられませんので。

○岡村委員 そうですね。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 一般管理費を減らす、その他の経費を減らす。まあそれはいろいろ、教育委員会様の了解も得ながらですけども、やっぱり一般管理費のほうを減らすという方向になるかと思います。

○岡村委員 要するにその第一義的には、収入減ったらコストも減らしてってことですね。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 そうですね。

○岡村委員 収入が増えませんでした、コストは従来どおりかかりますという発想ではない、守るところは守りますという考えですね。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 そうですね。

○岡村委員 そういうのはちゃんとモニタリングするということですね。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 具体的に言いますと、まあ本部経費を削るとい

うのが一番簡単ですので。

○岡村委員 本部経費を減らす理屈ってつきますか。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 ええと、もちろん基本的には本部はバックアップをするという立場でありますけれども、現場主体でやるという方向は変わりませんので、何かあったときに助けるというところで、本部経費は減らしていくしかないと思います。

○岡村委員 わかりました。今までの管理者の方が努力されても出なかったところを一気に増えるということで、実現可能かについては、なかなか確信を持ってないという気持ちであって、その場合はどうかなという事を今、質問しました。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 それについて、よろしいですか。

○岡村委員 どうぞ。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 方策としまして、考え方として、広報にお金をかなり投入するようにしております。まあ、ホームページの改修からスマートフォンサイトの確立から、それから、できれば教育委員会さんの了解を得まして、千葉市内の小学校、幼稚園、それから中学校に対して、生徒さん、児童さんの1人配付、企画書とかですね、そういう告知物については、現指定管理者さんよりもかなり予算を上げてやりたいと思います。ですので、投入すべきところにはお金を投入して、やる。それに基づく、興味を持ってもらえる講座数を増やす。それを土日中心にやっていくというような形で、その利用料収入の増額というのを考えております。

○岡村委員 わかりました。結構ご経験があられるんで、実績があるんで、それを見て、やってきたことから考えて、現在の千葉市の管理者さんよりも、いくだろうなという確証があるということなんですね。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 はい、それはもちろん。

○岡村委員 もう一つ、よろしいですか。展示品の入れ替えとかあると思うんですけども、そのコストはこの計画表の数字のどの辺に、幾らぐらい見ているかというのわかりますか。大体の数字で良いので。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 一応、平成30年度と31年に合わせて4,000万円を想定しています。予算書上は提案書様式の第30号。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 30号のほうに表記がありますが。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 こちらに5カ年の計算書をご提示させていただ

いておるんですけども、こちらの（２）の支出の表の、縦の表なんですけれども、②番、（２）の②番に、管理に係る備品経費ということで、お金の予算のほうを計上させていただいております。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 その内訳の中に、管理に係る備品経費、平成30年度2,500万円、平成31年度1,800万円という計上でさせていただいております。ですので、29年度は、私どもが考えている本当に展示物入れたい、やろうと思っている展示物が、千葉の皆さんに、どう言ったらいいんでしょうか、受け入れていただけるかどうか、これを徹底的にアンケートをとりたいと思います。タブレット端末で今いいのがいっぱいありますので。そういうことで、その目的に応じた形でのアンケートをとって、それを9月ぐらいまでとにかく集計を出して、ある程度方向性を出して行って、予算投入は一気投入で平成30年度に一気にやり上げてしまいたい。そのやり残しの部分を平成31年度に予算組みをしております。ですので32年、33年は結構少なく、予算措置としては少なくしております。

○岡村委員 大体金額の規模的にもこれぐらいだろうというのですね。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 はい。

○岡村委員 これじゃないと間に合わないということですね。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 はい。

○岡村委員 わかりました。

○近藤会長 尾形先生のほうから何か。

○尾形委員 スタッフの数が最初53名というふうになっているんですけども、フロアに何名ずついるような形になるんですか。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 フロアですか。

○尾形委員 はい。いろんな業務の内容というのは出ているんですけども、それぞれのフロアにやはり人間がいるかないかも、回答見してもらいたい。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 そうですね、フロアは常時2名はいるような体制の。

○尾形委員 常時2名。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 はい。シフトでやっています。運営課とそれから事業課と2つに分けておりますが、運営課イコール接客という考え方で考えております。ですので、一応そういう形の中でうまく回って行って、あとは土日がものすごく増えると思いま

すので、ワークショップの開催数を増やすと、私ども提案していますので、それは事業課の人間がそこに出てきて、どう言ったらいいんでしょう、サッカーの攻撃と守りのような感じで、もう日曜日はデスクにおける人間が極力少ないと、全部現場に出ているというような体制で運営をやっていきたいと思います。

○尾形委員 その人たちは、それぞれの必要な知識は持っている。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 もちろん。

○尾形委員 それぞれのフロアで、扱うものに対しての知識。そういう人員配置ですか。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 人員配置で研修等をやっていて、やりたいと思います。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 ②、「専門スキルプラスワン研修」というのを行う予定となっております、自分の担当の専門職以外にも、ほかの専門職を学ぶ研修を行おうと思っております。これにより、横断的な組織づくりを行って、業務の平準化というのを図っていかうというふうに思っております。

○尾形委員 ただ、こういう研修というのは、研修1回やりましたから身に付くというものでもないだろうし、だから、最初から1年間はずっと黙って見ていてくださいという事なのか、それとも最初からある程度のレベルの人たちを雇うのか。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 これは前提としまして、現千葉県科学館で働いていただいている皆さん方に、ぜひ継続して働いていただきたいという前提でやっております。ですので、提案書のほうにも、もしやらせていただけるようになれば、早目にヒアリングをさせていただいて、雇用条件とか、そういうようなものも極力聞かせていただいて、継続雇用をさせていただくというような形で考えております。はっきり言って全員入れかえたら科学館は成り立ちません。

○尾形委員 ですよ。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 絶対それは無理です。ですので、一番の鍵は、そういう形で今働いていらっしゃる方が私どものやり方とかにご賛同いただいて、極力職場、そのまま続けていただければというような前提でやっております。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 スケジュール欄にも書かせていただいていますけれども、年内に全て聞いて、いい年を迎えていただくという趣旨で、従業員の方にはもう安心していただきたいというところがございます。

○中原委員 よろしいですか。もしこの指名を取った場合、今やられている業者の方と比べて、次の5年間で、これだけは絶対に今までの業者とは負けない点、あるいは絶対に実現するような具体的なものは何かありますか。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 まずは書かれた数字ですね。今回もいろいろありましたのですけれども、あえて数字を挙げさせてもらいました。これは絶対やる数字なので。やっぱり目標というのはいろんなこと掲げることができるかと思います。満足度とかアンケートとかありますけれども、やっぱり評価は数字になると思っています。ですから挙げた数字を絶対にやり遂げるという覚悟でやりたいと思います。

現指定管理者さんがどうこうということでは決してありません。

○中原委員 どうもありがとうございます。

○尾形委員 50万人、今までの実績が年間40万人ですね。たしか年間で10万人上げるというのは、相当に難しいだろうと思うのです。マーケティングというか、個別にアンケートを配ったりということもありました。それからいろいろなイベントとか、そういうものが回数が増えますというものも、説明がありました。本当にそれで可能なんですか。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 いや、手法としてはもうそれ以外にないと思います。マーケットの、例えば小学校の生徒総数が何人いるのかと。じゃ、千葉市の市内の小学生の生徒さんの数がこれだけあるということであれば、それを郊外にどのように増やしていくか。じゃ、例えば船橋さんにもやっぱりプラネタリウムがあるので、そちらに対してどうするのかとか、そこはそちらでやっぱりやってもらわなきゃいけませんから、どういうマーケティングのリサーチをやっていくかという、そういう戦略が大事になってきます。現実それで、他館でもやってまいりましたので。いろんなことを言われました。無理な目標じゃないとか、いろんなことありましたけれども、やはりそれは掲げた数字に対して、やるためにどうしていったらいいのかということが一番大事なので。ですので、初年度は非常に、現状の、現指定管理者さんの事業を確実に踏襲して行ってやっていこうという方針でやっていますので。

ですからそれはできるのかと言われれば、絶対やりますということしか言いようがないんですけれども。

○尾形委員 わかりました。

あと、千葉市は、科学都市として方向性を持って、こういうものに取り組んでいるんですけれども、今までもご説明で施設の運営をこういうふうによく回しますというコミットをされ

ているというのはわかるんですけども、その結果として千葉市の科学振興に、どういうふうな形でつながっていくとお考えでしょうか。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 逆に、科学館の使命をちゃんと理解した企画をやらなければ、集客にはならないと思いますので。ですから600回の教室をやるということについても、例えば2020年度にプログラミングということが学校に導入されるというようなことがございます。ですからそれも、やっぱり先んじて、そういうプログラミング教室を幼児の方から参加できるもの、小学校、中学校というような形で考えております。

ですので、千葉の科学館はやっぱり違うぞと言われるような形で、首都圏から、まあ東京です。東京から来館者がたくさん来るような科学館ということで、やっぱり目標は高くやっております。中身がなかったら絶対お客さん来ません。それはもう、おっしゃるとおりだと思います。

○尾形委員 心配なのは、プラネタリウムに男女で来て、雰囲気だけ楽しんで帰りました。これでは何か、科学の振興というものなのか、という話が我々委員会の中でもありましたので。やはり方向性をきっちり持った上でのイベントになって、なおかつ集客があるといいなど。プラネタリウム担当の方は、そういう方向性で企画していただけるという理解でよろしいですか。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 もちろんです。こちらの条例の一番最初に、市民の科学に対しての啓発や、創造力のかん養を図ることが目的で、あくまでも入り口に、そういったアニメ番組であったりとか、星を見る楽しそうな会があったり、あとはちょっとカップルで楽しんでいただくようなものがあるんですけども、やっぱり目的はこの天文とか宇宙の、やっぱり科学的な物の見方であったりとか、地球という存在について少し考えてみるとか、もちろん、今回の私どものプラネタリウムの骨子は、やっぱり解説員による解説というところも中心に考えていますので、その部分で、やっぱりお客さんが窓口広く、最終的にはこちらの科学館のミッションであるところにつなげていきたいという、その手段と目的というのはひっくり返らないようにということももう常々やっていかないと、私どももこう、プラネタリウム運営何回かやらさせていただいていますが、そこがただの客寄せになってしまうと当然、自治体様からも、お客様からも支持がやっぱり、結果的になくなってしまうというのはもう重々承知しております。

○近藤会長 申し訳ありません。お時間が来てしまいましたので、終了させていただきたいと思います。

それでは、ヒアリングを終了いたします。ありがとうございました。

○コングレ・東急コミュニティー共同事業体 ありがとうございました。

○近藤会長 それでは、交代をお願いいたします。

〔コングレ・東急コミュニティー共同事業体 退室〕

〔トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 入室〕

○近藤会長 それでは、これからヒアリングを行います。10分間で本日の出席者のご紹介と、提案内容を簡潔にご説明をお願いいたします。説明が終わりましたら、私どものほうから質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 このたびはプレゼンテーションの機会をいただき、ありがとうございます。

〔出席者紹介〕

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 私どもの特徴は、凸版印刷100%出資の関連企業で、文化施設の開発運営を、これまで携わって来ました専門企業です。グループにおいて、凸版印刷が入っておりますのは、一部上場企業としてのガバナンスや財務のしっかりした与信力というものを、等しく対応するという意味でグループを形成しております。トータルメディアも凸版印刷100%出資の関連企業ですので、実質上1社で運営しているという状況です。この体制こそが、公の施設を安全・安心にお預かりするという意味からも、安定した運営を確保するという意味の顕れでもあります。

もう一つの特徴は、私どもは全国でこれまで17館ほど指定管理等を対応しており、文化施設の企画開発から展示開発、運営まで行うというところで、そういう学術情報のコンテンツとか、ワークショップを自分たちで開発してから運用していくという特徴を持ったグループです。それで安定した・安全な運営というものを推進していきたいと考えております。

具体的な提案内容に関しまして、ご説明いたします。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 牛村です。よろしくお願いいたします。それでは、ご説明いたします。

本日は時間も限られておりますので、活動の方針、目標、特に注力する事項について中心に説明させていただきます。

施設の実績というところがございますが、実績を踏まえまして、これからの活動方針を簡単に記載しております。千葉市科学館は、「人が主役の科学館」というコンセプトのもと、ボラ

ンティアを始めとした市民参画型のさまざまな事業を展開しております。その背景には、管理運営の基準に従いまして、淡々と事業計画を遂行するだけでなく、千葉市の行政施策、地域特性というものを十分踏まえた上で、5カ年ごとの活動方針を掲げて取り組んでまいりました。その結果、今日入館者数の維持と合わせて、全国的に注目されるような施設になったと考えております。

これから先の5カ年間の活動方針を、私たちは「市民を未来に誘う活動」、「Science × n =Future」という言葉で、決めました。これは科学と市民生活に関連するテーマ、例えば健康ですとか、音楽ですとか、産業ですとか、スポーツなどとのコラボレーションを図ることで、これからの未来、千葉をつくり出す活動を展開したいという願いからです。この活動は既に試行中で、現在、館の職員と一体となって取り組んでおります。

この活動方針を実現するためには、人から人への科学コミュニケーションという手法、幅広い外部とのネットワーク、そしてそのプログラムを実践する人材、これらを最大限に活用して取り組んでまいります。一般的には、施設の経年に伴って入館者数の減少が起こるわけですが、それをカバーし、さらに新たな魅力をつなげていくと考えております。

それでは次に、目標について簡単にお話しさせていただきます。成果を測る取り組みの1つといたしまして、指数というのがございます。千葉市科学館が永続的に発展するためには、生涯学習、学校教育、市民参画の3つの視点をバランスよく対応することが重要であると考えております。この考え方に基きまして、こちらに掲げました数値目標を設定しました。具体的には、ボランティア参画による生涯学習の支援。学校団体や、職場体験などの学校教育の支援。そして科学フェスタに代表されるような市民参画の支援を掲げております。

それでは、特に留意する事業に移ります。企画展などで集客効果の高いプログラムを外部から丸ごと借用するという手法を私たちは考えておりません。このことは、指定都市の科学館での連絡会議の中の1テーマでもありました。企画展実施に関する事項を取り上げて、各科学館が直面する課題を協議をしたわけですが、私たちは10カ年を振り返りまして、千葉市、そして市を越えた広域での拠点館という機能を最大限に発揮することに取り組んでまいります。そのためには、これまでの取り組みを再度振り返りまして、補強、強化すべき点をこれから3点お話し差し上げたいと思っております。

利用促進に関してです。子どもから大人までの施設として、幅広い年代に親しまれておりますが、全国的な利用者の低年齢化対策ですとか、大人に向けたプログラムの充実、中高生の利

用促進などが、現在さらに強化すべき事項となっております。また、「たんQひろば」ですとか、この夏の特別展のような実施プログラムと両輪で利用促進を強化していくことが、97万人の市民全員に認知され、足を運びたくなる取り組みと考えております。私たちは具体的に、ホームページのリニューアルや、SNSでの即時性の高い発信とあわせて、他の施設のホームページとの連携（リンク）を図りながら取り組んでまいりたいと思っております。また、駅前の百貨店、それから科学館近くの千葉PARCOの閉店という動向もございますが、きぼ一への導線、科学系パフォーマンスなどを活用した導線を意識した街頭告知も今後は積極的に取り組んでいくところでございます。

次に、質の進化とボランティア参画の発展についてです。「科学フェスタ」ですとか、「たんQひろば」の成功は、全国的なサイエンスアゴラ、日博協、全科協など各団体でも取り上げられております。展示案内ですとかワークショップ、企画展というような基本的な事業に関しましても、これまでのノウハウを生かして、管理運営の基準を超えた利用者サービスを提案します。

具体的には、展示の案内に触れさせていただいています。展示の案内を、各フロアをツアー形式でつなぎまして、楽しみながら科学体験ができるような、「科学館探検隊」というものを、今後導入を考えております。現在「プラスサイエンス」という仕組みがあるわけですが、こちらを積極的に展開したようなものを想定しています。

ワークショップに関してです。開館当初からの運用を、一部見直しを現在、試行しておりますが、ワークショップのバリエーションを広げてまいりたいと考えております。一例といたしましては、ターミナル向けのワークショップを発展させて、ボランティアさんによる工作体験、いつでも体験できるようなカウンターでのワークショップという機能を追加させまして、内容的には3構成といたします。エスカレーター上がったところで、楽しい体験が必ずできる機会をつくってまいりたいと考えております。

企画展とプラネタリウムについて簡単に触れます。開館10周年を迎えるに当たりまして、利用者の動向も、施設の新しさというものからコンテンツの質に当然傾いております。利用者動向もプラネタリウムですとか、企画展、特別展の話題というものをきっかけに足を運ぶようになったと見受けられます。利用者の満足度を高めると同時に、幅広い利用者を誘客するためにも、プラネタリウムという機能と、企画展の機能との連携、それから講座と、企画展の連携というような、複合的な取り組みを、これからも幅広く取り組みまして、この成功事例を踏ま

えて展開してまいりたいと考えております。

ボランティア活動についてでございます。現在、ボランティアの活動の充実というのは非常に目を見張るものでございますが、具体的にはボランティアさんによるいろんな研修というものも取り組まれております。それぞれの社会経験を、ボランティアさん同士でも共有したりですとか、それをもとにプログラムをつくり上げるということが着実に進んでおります。この成果をもとにいたしまして、ボランティアさんとの展示の更新ですとか、ボランティアさんによるクラブ活動というものを、これらの下地をいかしまして、取り組んでまいりたいと考えております。

具体的には現在、「ちば生きもの科学クラブ」や、今年度のコンピューターのプログラミング講座というものもあります。これらの講座を一過性のもので終わることなく、継続的なクラブ活動に発展をさせていきまして、市民参画によるクラブ活動というものを新たに立ち上げていきたいと考えております。

最後になります。きぼ一るの中に位置します科学館は、行政施策と連携した、公の施設としての取り組みが非常に求められていると考えております。千葉市科学館はおかげさまで、多くの人が集まる施設となっております。科学館という機能を発揮すると同時に、市の施策と連携した公の施設としての使命、取り組みというものが求められていると考えております。類似施設とのミュージアムトライアングル構想というものもありますが、それを超えまして、さらに特別史跡に向けた加曽利貝塚ですとか、動物公園との連携で、科学館の誘客を図っていきます。そして科学館からの誘客も図ってまいります。

また、きぼ一ると一体となりました中心市街地の活性化というものに関しましても、現在一部、商店街の方々とミュージアムショップの商品を仕入れをさせていただいたりとかしておりますが、積極的に中心市街地の活性化ということにも継続して取り組んでまいりたいと考えております。

これら3つの視点に、注力いたしまして、質の進化とボランティア参画の発展を図ってまいりたいと考えております。

事業費に関しまして、簡単に触れたいと思います。第3期目の取り組みの大きな視点であります。入館料収入というものに関しまして私たちは、具体的に（効率化の）指数の向上とあわせまして収入増ということを見込んだ計画になっております。対策といたしましては、特別展、企画展のセット券の販売の強化、それから特別展、企画展の料金の一部見直しというもの

を考えております。これらによりまして、入館料収入の増を図ります。また、ミュージアムショップの販売力も強化いたしまして、平成24年当時の販売力の実績まで回復いたしまして、指数効率化を図るというだけではなく、収入増を図りまして、指定管理料の削減プログラムの充実という効果に励んでまいりたいと考えております。

概要に関しましては以上でございます。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 よろしくお願いたします。

○近藤会長 それでは、こちらから質問をさせていただきます。

質問ございますか。

○中原委員 よろしいですか。トータルメディアさんですね、最後のお話にありましたように、今年で10年目ですよ。私自身は第2期目から関わり毎年評価していますが、最初にちょっと苦言ということでもないのですが、利用者数について、40万人弱をこれから41万人少々を目標としていますが、今後5年間の利用者数もその位の想定なのでしょうか。また、2期目の理念として、「広がりをつくり出す市民が主役になる活動」とあります。例えば、5年かけてこの理念を具体的にどのように実現するのでしょうか。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 幾つかあるわけですが、1つという話でありましたら、2期目の途中からですが、JSTの支援を受けまして取り組みました「千葉県科学フェスタ」というものがあるかと思えます。あちらは当初、事務局として科学館が機能したわけですが、科学館が引っ張るといって当初は始まりました。ただ現状、先週でございますが、2万2,000人に迫る市民の参画を得られております。ここは科学館が引っ張るといってではなく、市民から市民への活動が広がりまして、市民の皆さんがこの活動に参加したい、さらに広げていきたいというあらわれの一つではないかと考えております。これはまさしく活動の広がりと言われております。

○中原委員 3期目は、具体的にはどういうことをなさるのですか。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 所管課のご指導をいただいて取り組んでおりますが、科学館の中で、今まではちょっと異分野であったかなという印象ですが、科学のマジックというものとのコラボを考えています。

○中原委員 あの、でんじろう先生みたいな企画ですか。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 違います。それはサイエンスショーでございます。

○中原委員 ああ、ショーですか。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 手品ですね、簡単に言いますと。科学を使った手品というものをプラネタリウムの中で実施いたしまして、科学館でちょっと違うジャンルとの掛け合わせ、その部分で、入り口は違う形ですけども、サイエンスにつながるといふのを展開をいたしました。

先ほど申し上げたのは言葉足らずでしたが、その一環でスポーツですとか、音楽ですとか、そういうものと連携をして、一般のお客様、利用者に非常に幅広く、裾野広く引っ張って、将来につながる科学的なことを提示していきたいと考えております。

○中原委員 逆に言えば、そういうことをなされると、40万人を優に超えるんじゃないですか。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 期待はしております。手応えも感じております。

○中原委員 わかりました。ありがとうございます。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 特に、科学館は未就学児童というのが、科学をまだ学習する前の子どもたちというのが利用も多くて、今回、未就学児童を対象としたプログラムの充実というところも大きい部分だと考えたいです。

○近藤会長 よろしいですか。

ほかに何かございますか。

○岡村委員 よろしいですか。同じところなんですけれども、私も気になっているのは、提案書に、入館者数の目標を、41万人としてございますけれども、過去からずっとご担当されていて、運営かなり厳しいんだらうというふうに思いますけれども。これやっぱり目標ですか。という、聞き方悪いんですけども、控え目に見てこうなのか。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 ここは固く超えていけるというふうには考えております。

○岡村委員 ですよね。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 41万人というのは、安全・安定に運営するための最低ラインと我々は捉えています。まずは目標を余り高く設定して、大きな事業計画だったら、不安定さを残すより、まずは安全に運営するというところに、着実に運営していこうと設定、数字です。

○岡村委員 もう一ついいですかね、提案書の25号です。事前のご質問でご回答いただいておりますよね。それで、市内業者への委託について、個人の事業者も含めた委託金額の合計が1,300万円で、19%程度ですが、これは間違いないですか。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 現状もおおむねその状況です。

○岡村委員 準市内の方、入れていないんですか。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 入れておりません。

○岡村委員 準市内入れると幾らぐらいなんですか。もし数字があればですけども。例えば凸版さんはあれですよ。準市内。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 若干ございます。

○岡村委員 1,000万円程度ですかね。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 第2期のときは、正直申しまして、市内におきます日立系の会社が準市内扱いだったんですが、企業の統合により市外扱いになってしまいました。この部分が非常に大きな状況かと思いますが、あそういうものももし含まれるとかであれば準市内、市内業者も含めまして40%から50%ぐらいまでいくかと思いますが。

○岡村委員 わかりました。

○近藤会長 ほかに何かございますか。

○尾形委員 質問ではないんですけども、単なる感想なんですけれども。凸版さんが一番最初に応募されて決めたときに、凸版さんの提案書というのは、非常に勢いがあったんですよ。自分たちはこういうことをやりたいというやつがあった。で、他の提案よりも、それが強く出ている、もちろん数字等々も比べてみると強かったですけれども。何か今回の提案書を見てみると、自分たちは今までの実績をベースに、今度はこうやりたいんだというのが、ちょっと伝わってこない。まとめ過ぎている。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 ご指摘については、私どもも認識しております。市から頂戴しましたこの提案書様式に相反するようなことは申しませんが、枚数限定と、各ページに書かなければならないことが定められていますので、こういう思いで、ですとか、こういう方針でというものは書くページが存在しないです。思いというものがどこに盛り込まれるのか、非常に難しいところではあったんですけども、思いを書きまして、記載すべき内容を記載できなくてゼロ点になるのはいけないということで、精いっぱい頑張った次第です。

○尾形委員 例えば、先ほどから幾つか質問が出ている、入館者数を41万人というところに設定する、それは安定のために41万人。それが必要最低限の、自分たちで設定したものです。ただし、じゃ、本当はここまで、こういう取り組みをするからここまで伸ばしたいんです。一番最初のころの御社の提案書というのは、モニタリングをこういうふうを活用するとかっていろいろあったんですよ、具体的なところが。何となく、今の現状をそのまま維持しますと言われていたような気がしてしまっているんですけどもね。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 政令指定都市の科学館の集まりがあります。そこで直営の名古屋市科学館を除いて、一番注目を集めているのが千葉市科学館であり、ここが科学館のプロトタイプになっております。現在、福岡市の科学館の開発に取り組んでおりまして、政令指定都市、2回目ということで、いろんな科学館事業にイノベーションを起こす仕組みというのを模索しています。そこを一つ一つ乗り越えていながら、政令指定都市の館が2館、それもすごく市街にあって、人々のアクセスがいいというところで、市民を未来へ誘うというところは、やはり科学をもっと生活の中に近づけていきたいとか、見えにくいサイエンス・コミュニケーションの活動というのを充実させていきたいと考えます。市と千葉大学と包括的な連携協定を締結していますが、科学館同士が連携協定を締結したりとか、地域の研究者とか技術者の方々が、千葉市の科学館で事業をやっているんだという、科学に対する人が見える、形というのを今、模索しているところで、それが実現できれば、先生がおっしゃったような、科学を文化として捉えるとか、もっと幅広い年齢層に合わせたプログラム開発というところが出てくると考えます。

私ども自身が今後、科学館事業の運営のイノベーションを起こしていかななくちゃならない立場になっているというのは認識しています。

○近藤会長 ほかにございますか。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 1つだけ、よろしゅうございますか。一般市民の方からご覧になると、多分科学館に足を運ばないと科学館が見えないという状況が当初だったと思うんですが、今は自然公園に行きましても科学館との連携ですとか、臨海部の商業施設に行きましても、科学館が見えたりするとか。野球の試合に行っても科学館の人がチラシを配っているですとか、いろんなところで科学館は、露出はしてきているとは思いますが。単に人を寄せるという形じゃなくて、科学館でもっとすごいことができるねと期待される。そういう機運からつくっていくこと、そこを注力して取り組んでまいりたいと考えております。

ありがとうございます。

○近藤会長 ほかにございますか。

では、質問が終わりましたので、以上で終了させていただきたいと思います。

それでは、ヒアリングを終了といたします。ありがとうございました。

○トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 ありがとうございます。よろしくお願いたします。

<トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体 退室>

○近藤会長 それでは、続きまして各委員から、全体的な評価をお聞きしたいと思います。各委員からお聞きした後で、「保留」のある項目などの審議に移りたいと思います。

では、全体的な評価について、中原委員からお願いします。

○中原委員 個別の評価はその後ですか。

○近藤会長 一応、今ここに皆さんが評価したところで、空白になっているところというのが、皆さんの「保留」というところのようです。

○中原委員 「保留」というのは、記入忘れです。

○近藤会長 この白紙になっているところ、「保留」という項目であったんですけども。

○中原委員 記入忘れということで。ちょっと申し訳ないですが。

○近藤会長 そうしましたら、中原先生のところは、この25項と、それから最後のところですね。

○中原委員 一番最後ですね。

○近藤会長 28と2つ。

○中原委員 この場でいいですか。

○近藤会長 後で、書いていただいて提出になりますので。

○中原委員 総評ですか。

○近藤会長 そうですね、全体的な。

○中原委員 ああ、そういうことですか。尾形先生に既にずばり言っていただきましたけ。私は、ちょっとオブラートに包んだもので。まさに尾形先生が言い得て妙で、トータルメディアさんは、ちょっと慣れて、やや新鮮さに欠けていたのかなという印象がありました。逆に、コングレさんは新規ですから、熱意というのが伝わってきたのが感想ですね。

今までのトータルメディアが悪かったということではないんですよ。別にそういうわけじゃ

ないんですけど、こういう形で比較すると、どちらかを選ばなきゃいけませんから。

○近藤会長 岡村先生。

○岡村委員 私、今先生方の点数見て。本当、悩みまして。

○中原委員 でも余り開きはないんですよ。

○岡村委員 そうなんですよ、ちょっとなんですよ。

○近藤会長 そうなんですよ。1つ目というのは項目とかは。評価を入れさせていただいて、私も、数値目標のところ余りに違い過ぎるので、備考欄に書かせていただいて、評価をするのに余りにも違い過ぎて、基準、どっちに持っていったらいいんだというのがわからなくて。

利用者数に関してのところ、このトータルメディアさんのほうの過去の数字が、4年間のものですけれども、そこを見るとそんなに、その41万人というところに関しては、今までやっていたところの部分だけで言えば、そんなにクリアできない数字でもないと思うので。

○中原委員 もうちょっと飛躍してほしいですね。

○近藤会長 この間、前のときに中原先生がおっしゃっていた目標値というのの掲げ方で、これだけやっていけばいいのかというところの話、出たじゃないですか。だからその部分に関しては、今の数字にほぼほぼいっていいのかなという感じに、ちょっと私は受け取れたんですけども。その点はやっぱり、さっき尾形先生の質問なんかにも、そういうところがあるのかなと思ったんですが、いかがでしょうか。

宮野先生。

○宮野委員 尾形先生に言っていたんですけども。いや、文章だけ、言葉の点だけを見ても、それが如実にあらわれていたかなというふうに思い、今お会いしてみると、全体的にトータル、後のほうでいらっしゃった団体、やや元気がないなというふうに。ただ、今までやってきた、もうゼロから今までやってきた、全てわかっていらっしゃるので、なかなか、ここをこうしたほうがいい、あそこがああしたほうがいいということが、細かく出てきてしまうというのかなと思う。それに比べて、新しく今回出された団体の方は、やや今後に心配はなくてもいいんです。

○近藤会長 そうですよ。

○宮野委員 非常に多く悩むというか、そういうところも見えるので、私は点数はよくはしました。言葉だけで見るということでしたのですが、そういうのはあります。

○近藤会長 あと、「保留」だった項目のところとかというのとかもあわせてですね。いかが

でしょうか。

○宮野委員 私、「保留」にいたしましたところが、5の(1)です。質問をさせていただきましたけれども、●にさせていただきました。

○近藤会長 全体的な評価としては、皆さんの。これがやりたいということがはっきりしているところと、そうじゃないところというところの。

○宮野委員 新しいほうが言いやすいですね。

○近藤会長 そうですね。今までやっていなかったのだからこういうことやりたいですということもね。そこのところの差があるかなと思ったことはあって、この内容を見てもやっぱり前のところのものを見本にしているというところがあるので、最後のところ、自主事業の数字が載っていたかと思うんですけれども、30号のところとかで。収入の部分とかでいうと、やっぱり数字的にはこれだと集客がどうなのかなと、読んでみて思ったのですけれども。

評価は、それではそちらに書いていただいて、続いて「保留」のあった項目について、「保留」とした理由を伺いたいと思いますが。先ほどちょっともう、答えが出ているかなとは思いますが、尾形先生のところの「代替経営及び財務状況」の欄はいかがですか。

○尾形委員 財務状況は、岡村先生のレポートの後に書き込もうと思っていたので、全てもう書き込めます。

○近藤会長 お願いします。

あとは岡村先生の●●●のところですね。

○岡村委員 ちょっと申し訳ない。本当、悩んでいるんです。

○尾形委員 悩むはずですよ。僕も後で変更の可能性ありって、備考欄に書きましたから。本当にどっちが実現性があるのかと。現実の数字ってどっちなんですかというのは、もう出ないですよ。

○近藤会長 出ないですよ。

○尾形委員 だけれども、最初の人たちもこれはコミットメントというふうに言っていましたから。で、2番目のほうは、これ最低限なんですと、安定のために。もうそれでいくしかないみたいな。

○岡村委員 そうですね。ちょっと待って下さいね。1点差にしてもこの式的には余り数字は変わらないんですけれども、合計点はですね。うーん、今お話聞くとあれだね。

○近藤会長 特には。

○岡村委員 私はあれですね、様式18号のですね。さっきまでは●と考えてきたんですけども。

○近藤会長 後でこちらに数字をご記入いただくので大丈夫だと思うんですけども。

○岡村委員 過去の功績というか、何というんですかね、市内のいろんな機関との連携とか。

○尾形委員 うん、つくり上げてきているのは、やっぱり。

○岡村委員 ですよ。そこが余り出ていなかったんですよ。

○近藤会長 そうですね、提案の中には。

○岡村委員 だから本当に、●でいいのか●でいいのか迷って。多分、今の話聞いていますと、きちんとやってこられたよなって、やっぱり思うんですよ。やっぱり。じゃ、もうここは決定しましたので。

○近藤会長 あとは、宮野先生は。

○宮野委員 やはりはっきりしなかったと私は思ったんですね。ですから、●●●。

○近藤会長 コングレさんの評価のもですか。

○宮野委員 記入して、出せばいいんですね。

○近藤会長 はい。後でこちらに書いて。

○宮野委員 わかりました。

○近藤会長 中原先生は記入漏れということでしたね。

○中原委員 25号のところですが、市内の業者にということで、半数は市外の業者ですので、●●●●●ぐらいかなと。

それから、一番最後の職員の雇用安定ということですが、これもコングレさんは当たり前だろうということから、●●●●。トータルメディアさんは、今までの継続でいきますから、まあ3ということで評価いたします。

○近藤会長 「保留」にしたところは、評価をするのにも余りにも数字の違いがあり過ぎて、どちらの数字でそれを評価したらいいのかというところ、とても迷ってしまい、結局、来館数によって収入、収支という妥当性というのが出てくると思うので、そこもあわせて「保留」にさせていただいたんですけども、片や今までのものをずっと継続していきたいというところと、片や新しいものに、取り組んでというようなところの覇気の違いというか。片方にはとても今後のやる気というのが、見えたかなというところがありますけれども。

確かに、数字ができなかった時にどうするのかというところも、さっき質問で出させていた

だいて、ご回答もいただけたので、それを踏まえた上で、ここの数字は書き込みをさせていただきたいなと思っております。

何かご意見、ご質問とかはございますか。大丈夫でしょうか。

以上で審議は終了といたします。

○岡村委員 すみません、1つ。本当に、目標にいかなかったらどうするんですかね。

○近藤会長 ご質問ですか。

○岡村委員 毎年4,000人、5,000人って、コミットといっても、やってみたけれども目標に数字がいかなかった場合どうなるんですかね。。。

○尾形委員 結局、千葉市から出すお金はもう決まっているんですよね。それでもとなったら、約束した、入館者数は達成できなくても、やらなきゃいけないことは全部やりますと、それだけのことで。ただし、そのときはもう指導していくしかないでしょうね。

○大崎生涯学習部長 基本的には、是正指導していくという。それでも対応できなければ、最悪のケースは、指定管理者の取り消しということにつながっていく可能性はあるかもしれません。

○岡村委員 教育委員会の方できちんとモニタリングされて、ということですかね。

○大崎生涯学習部長 もちろんそれは、当然ですね。

○三田総務課長補佐 それでは、これから時間をとりまして、ただいまの審議結果を含めて皆さんに、どこかの修正がある場合は、赤鉛筆で集計表に記入していただきたいと思います。修正が終わりましたら、挙手をよろしく願いいたします。

〔（休憩）〕

○近藤会長 それでは、採点が終わりましたようですので、議事を再開いたします。

事務局から集計結果について、ご説明をお願いいたします。

○國方総務課長 大変お待たせいたしました。お配りいたしました集計表をご覧ください。コングレ・東急コミュニティー共同事業体の得点は、合計で629点。トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体の得点は606点で、コングレ・東急コミュニティー共同事業体が第1位となりました。

なお、採点の結果で、過半数の委員がDの評価をした項目、それからあるいは1人以上の委員がEの評価をした項目はありません。

以上でございます。

○近藤会長 そうしますと、失格とする応募者はないようですので、本委員会における千葉市科学館の指定管理予定候補者の選定結果は集計のとおり、コングレ・東急コミュニティー共同事業体を第1位順位、トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体を第2位順位の指定管理予定候補として、それぞれ選定することといたします。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○近藤会長 続きまして、答申書についてですが、ただいま審議した選定結果や、委員からありました意見などを答申案として事務局にまとめていただきたいと思います。

私からの提案ですが、今回の審議に基づく答申について、事務局がまとめた答申案をお送りし、委員の皆様から個別にご意見をお聞きした上で、私が承認して、本委員会の答申として決定するということにはいかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○近藤会長 それでは、事務局がまとめた答申案について、委員の皆様から個別にご意見をお聞きした上で、私が承認して、本委員会の答申として決定することといたします。

次に、「その他」ですが、何かございますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○近藤会長 私から質問ですが、今回の選定結果の反映と、来年度につきましては、スケジュールはおおむねどのようになっているのでしょうか。

○國方総務課長 今後のスケジュールについて、簡単にご説明申し上げます。まず、今回の選定結果の反映につきましては、答申をいただいた後に委員の皆様をお願いする予定の案件はございません。市の内部の事務といたしましては、答申をいただいた後、選定結果を申請者に通知し、協定締結に向けた協議に入ります。協議がまとまれば、申請者と仮協定を締結し、選定結果を公表します。現時点では、公表は10月下旬を予定しております。

その後、例年ですと11月末ごろに開会いたします千葉市議会において、指定管理の指定に関する議案を提出いたします。市議会での議決を得られれば、正式に指定管理者として指定し、協定を締結することとなります。

今回の選定結果の反映につきましては、以上でございます。

私からの説明は以上でございます。

○近藤会長 今のご説明にご質問はございますか。

皆様のご協力によりまして、本日の議事は全て終了しました。無事審議を終了することがで

き、ありがとうございました。

それでは、事務局にお返しします。

○三田総務課長補佐 長時間にわたる審議、ありがとうございました。

以上をもちまして、平成28年度第2回千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会を閉会いたします。

委員の皆様、本日はお忙しい中、ありがとうございました。

問合せ先 千葉市教育委員会事務局教育総務部総務課

TEL 043(245)5903

FAX 043(245)5990